仙台駆け込み寺

No.08
2021年5月1日

いろは横丁相談室だより

新型コロナウィルス感染拡大に伴なう、仙台市のまん延防止特別措置適用をうけて5月12日まで相談室はお休み致します。電話での相談予約は受け付けますので、相談員の方には日時限定で対応をお願いする場合があります。

東日本大震災被災地への「出張駆け込み寺」プロジェクト始動！

仙台駆け込み寺は、仙台市いろは横丁の相談室に加えて、出張駆け込み寺として東日本大震災被災地での相談室を開設するプロジェクトをスタートさせました。震災から10年が経過しましたが、被災者の「心の復興」は道半ばであり、国も心の問題等に対応するため復興期間を更に10年間延長して取り組むことを決めました。

震災の翌年2012年7月に発足した国分町（仙台）駆け込み寺も当初から被災沿岸部への出張による相談を検討していました。

（裏面2012年7月5日新聞記事参照）

出張駆け込み寺を予定している地域は石巻市と名取市閖上地区です。石巻市では新たに相談室を開設します。閖上地区は閖上中央第2自治会の集会所を借りて運用します。

出張駆け込み寺は、まん延防止特別措置が終了後に開始予定です。

【石巻相談室】





私と駆け込み寺

令和2年3月、コロナによって世界中がパンデミックに陥った。家族以外には接触せず最低限の行動を強いられる中、私は悶々と毎日を過ごしていた。少しコロナが落ち着いたころ仲間より「玄さんの駆け込み寺が仙台でも立ち上がることになりました」と話を聞いた時、これは絶対に相談員をしようと決意しました。

私のこれまでの苦しかった体験を少しでも役立てることがあれば、仲間に助けられた喜びを伝えられたらという思いでした。

相談内容は様々で電話で受ける時や本当に駆け込んで悩みを切々と訴える方もいます。私の場合は相手の方の気持ちを受け止め、今までの苦労を聞きます。そして苦労の中から小さな幸せの種を見つけ最後は感謝することの大切さと明日への光、希望を確認し合います。「話をして良かった、スッキリした」と明るい声を聞くと「大丈夫！あなたが幸せになれるよう願っています」とアドバイスします。

駆け込み寺を紹介してくれた仲間との出会いが素晴らしいことであることをさらに強く感じることができるのです。　　A.S さん

4月の相談状況（コロナ休業での状況）

【相談内容別】

・ＤＶ	0件
・家族の問題	6件
・ストーカー	0件
・家庭内暴力	0件
・心の問題	0件
・仕事の問題	2件
・ホームレス	0件
・病気の問題	0件
・いじめ問題	0件
・お金の問題	0件
・法律問題	0件
・恋愛問題	0件
・その他問題	3件
合計	11件

【年代別】

・10代	0件
・20代	5件
・30代	4件
・40代	0件
・50代	1件
・60代	0件
・70以上	1件
・不明	0件
合計	11件

【男女別】

・男性	2件
・女性	9件
合計	11件

4月のボランティア参加、寄付金情報

ボランティア参加人数　　のべ30名

寄付金　　0円

ありがとうございました

河北新報　平成２４年(2012年)７月５日(木)

苦悩に光 被災地でこそ

仙台に「国分町駆け込み寺」開設

玄　秀盛さんに聞く

ドメスティックバイオレンス（DV）や多重債務、引きこもりなど、東京都新宿区歌舞伎町でよろず相談に応じる一般社団法人「日本駆け込み寺」（玄秀盛代表）が7日、仙台市青葉区国分町に支部を開く。通称「国分町駆け込み寺」＝?＝。東北一の歓楽街に拠点を構え、東日本大震災の影響が続く地域で暮らす人々が心に抱えるさまざまな問題の解決に力を注ぐ。開設準備のため仙台を訪れた玄代表（56）に抱負を聞いた。

◇

―駆け込み寺とは。

悩みを抱える人が一歩を踏み出す場所。分野を問わず、面接と電話で私やスタッフが相談に応じる。胸の内をとことん聞き、内容を整理すると、本人が解決に向けて動きだす。その人の中にある解決の種を見つける手助けをする。

相談は10年間で約2万件。警察や行政が手に負えない問題もあり、暴力団やDVの男性と渡り合うこともある。自分の経験や過去の相談事例で「人」から学んだことを基にするのが私のやり方だ。

―なぜ仙台に支部を。

震災後、被災者の相談が増えた。家族や親戚とうまくいかない、仕事を失うなど内容は多岐にわたる。私も神戸市須磨区に住んでいたときに阪神大震災で被災し、長田区で炊き出しなどの支援活動をした。その経験からも仙台に拠点が必要だと思った。

「国分町駆け込み寺」は飲食店ビルの1室で、塩釜市出身のスタッフが〝住職〟として相談に応じる。私も月に2、3回は来る。地元のNPOや企業、寺などとも連携していく。

―歓楽街に拠点を構える理由は。

歓楽街には人が集まる。悩みを抱える人も足を運びやすい。知名度が高い国分町に開設することで存在を知ってもらい、訪ねてもらえる。

―被災地の現状をどう見るか。

復興バブルの恩恵を受ける人と、生活が苦しくなる人の格差が広がっている。羽振りがいいのは主に東京などの資本だ。

阪神大震災で、仮設住宅に取り残されたのはお年寄りばかりだった。東北でも自殺する人や土地を捨てて出て行く人の増加が懸念される。危機感が募るのはこの冬だ。

夫の暴力を相談した女性が、親戚から「生きているだけでありがたいんだから」と、我慢するように言われた。そんなことがあっていいはずがない。被災地では個々の苦しみが黙殺される傾向が続いている。

―駆け込み寺を始めたきっかけは。

白血病のウイルスに感染していることが分かり、死を覚悟してから人生観が変わった。金もうけがむなしくなった。さまざまな職に就いた経験と、暴力団や行政相手にもひるまない知識、度量を生かして人助けをしようと思った。発病はしていないが、常に死を意識する。命の尊さは知っているつもりだ。

―今後の抱負は。

一人でも多くの人を助けたい。沿岸部の出張相談室も検討する。駆け込み寺を地元の人に育ててほしい。相談したい人だけでなく、ボランティア希望者も気楽に訪ねてほしい。

（聞き手は生活文化部・渡辺ゆき）



げん・ひでもりさん　1956年大阪市生まれ。両親の離婚などで4人の母と4人の父のもとで育つ。中学卒業後、約30の職を経験。2000年に成人T細胞白血病ウイルスに感染していることが分かったのを機に生活を一変。02年「NPO法人日本ソーシャル・マイノリティ協会」（通称新宿歌舞伎町駆け込み寺）を設立。11年7月、一般社団法人日本駆け込み寺に改組し代表を務める。

?国分町駆け込み寺　仙台市青葉区国分町2丁目6の10、ペニヤビル2階。連絡先は022（395）7740。7日は開所式のみ。通常の開所時間は月～土曜の午前10時～午後6時だが、8日も相談を受け付ける。無料。